

特集：尿細管間質性腎障害

# 序文：尿細管間質性腎障害のトピックス

武曾 恵理

尿細管および間質を病変部位とする病態はおびただしい数に及ぶ。この部位は、尿細管または間質固有の多くの疾患が引き起こされる場所であり、さらに糸球体疾患の結果として起こるネフロンの変縮や硬化が起こり、また腎を潤す血流の減少の結果として、虚血病変をきたす場所でもある。しかも、特に慢性に経過する疾患の場合、その病変はさまざまな時相で前述のごとく一次性または二次性に起こった障害をすべて包括しており、1つの疾患名で表わされる障害はむしろ少ないと言ってもよい。表に尿細管間質を障害するさまざまな要因を掲げるが、従来これらについては、多くの教科書的解説がなされてきた。本特集では、これらの病変の新たな疾患群の発見や、従来の疾患の経験が積み重なることによる新たな解釈の紹介を目的として、以下の項目を中心に解説をお願いした。

## 1) 病態診断への新たなアプローチ

病変の発症している部位の病理学的特定を、症例に寄り添った新たな切り口でまず総論として解説していただき、それらを臨床的に察知しうる有望なバイオマーカーの紹介をしていただいた。

## 2) 新たな疾患概念、および従来の疾患の蓄積による新たな病変解析の進展

IgG4 関連疾患は最近その疾患概念が確立された。また、全身血管炎をきたす ANCA 関連血管炎は、多くの症例の積み重ねにより尿細管間質性病変の特色が明らかになりつつある。

## 3) 腎移植や難治性ネフローゼ症候群治療の進展による新たな疾患病態解析

移植腎病変の発現の場としての尿細管間質性病変の実態とカルシニューリン阻害薬病変については、移植腎のみならず、ネフローゼ症候群の頻回再発例への使用歴から、そ

表 尿細管間質性腎病変の分類(WHO 分類)

1. 感染性
  - A. 急性腎盂腎炎：細菌，真菌，ウイルス
  - B. 全身感染症に伴う急性尿細管間質性腎炎：A 型溶連菌，ジフテリア，トキソプラズマ，ウイルスなど
  - C. 慢性腎盂腎炎
  - D. 特殊な腎感染症：結核，梅毒など
2. 薬剤性腎症
  - A. 急性薬剤性尿細管傷害
  - B. 薬剤性過敏症
  - C. 慢性薬剤性尿細管間質性腎炎：非ステロイド性解熱鎮痛薬，リチウムなど
3. 免疫学的尿細管間質性腎炎
  - A. 全身性エリテマトーデス
  - B. シェーグレン症候群
 その他
4. 閉塞性腎疾患：水腎症
5. 逆流性腎症
6. 乳糖壊死を伴う尿細管間質性腎炎
  - A. 糖尿病性腎症
  - B. 解熱鎮痛薬腎症
 その他
7. 重金属性尿細管障害：鉛，水銀，カドミウム，など
8. 急性尿細管壊死：中毒性，虚血性，ショック，敗血症，ミオグロブリン血症 など
9. 代謝性尿細管間質病変
  - A. 高カルシウム性腎症
  - B. 痛風腎
  - C. 低カリウム性腎症
  - D. 尿酸腎症
 その他
10. 遺伝性尿細管間質性腎症
11. 悪性疾患に伴う腎症
  - A. ミエローマ腎症
  - B. マクログロブリン血症
  - C. クリオグロブリン血症
  - D. 白血病，リンパ腫の浸潤
12. 血管性尿細管間質病変
13. その他の原因による病変
  - A. 放射線腎症
  - B. サルコイドーシス
 その他

の適切な使用法指針作成も含めて、課題となっている。この部位を病変の場とする感染症は従来から知られているが、これも上記の移植腎を含めた免疫抑制療法の結果として、病因となる感染症が様変わりしつつあり、さらにその臨床的、病理学的特性も解明が進んできた。

#### 4) AKI, CKD の腎虚血の考え方

急性および慢性に進行し、部分から腎全体に及ぶ腎血流の阻害による虚血性尿細管間質病変は、最も普遍的なこの部位の障害であるが、その病態の新たなアプローチが模索される。

#### 5) 尿細管間質性遺伝性疾患の診断の進歩

小児を中心とするこの部位の遺伝学的異常症は、予後不

良の疾患群であり、治療の介入を拒んできたが、近年の遺伝子検索の進歩で、その病態の解明がさらに明らかとなり、また病理学的診断も進んできている。これらはしばしば成人でも遭遇し、確定診断がつかない一般的腎炎として処理されていることもあり、その臨床的、病理学的特性に対する認識が、すべての腎臓内科医に要求される。

以上のような構成で今回いま話題となっている課題について、それぞれのエキスパートの方々に解説をお願いした。この間にも新たな知見が報告されており、腎の大きな部位であるこの部の病態解明がますます進むことを期待する。